

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ソウカダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) ニシウラゼミ
創価大学	経済学部	西浦ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) コドモハン	フリガナ) サイトウ テルユキ	9人	無
子供班	齋藤 輝之		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)
Microsoft Office PowerPoint 2016

研究テーマ (発表タイトル)
ルーツを持つことがハンディにならない社会を目指して

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

外国にルーツを持つ子どもが日本で暮らす上でのさまざまな問題に注目し、その中の一つであるアイデンティティの確立を達成し、子どもたちにとってルーツを持つことがハンディにならない社会を目指すことが本研究の目的である。また、グローバル化が進む日本の中で、外国にルーツを持つ子どもが自身のルーツを誇りとして保ち、将来的に活躍できる環境づくりをしていきたい。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

本プロジェクトでの外国にルーツを持つ子どもの定義は、「両親、あるいは両親のどちらかが外国籍の子ども (日本籍の子どもを含む)」とする。(新宿区「平成 24 年度外国にルーツを持つ子どもの実態調査」、2012)

取り組む背景：外国にルーツを持つ子どもへのアイデンティティ形成の支援が進んでいないこと

現在、外国にルーツを持つ子どもの中で、日本語指導が必要な子どもが抱える課題として、大きく 4 つ存在する。①学校への適応、②日本語の習得・学力向上、③進路問題、④アイデンティティの形成である。それぞれの課題に対して政府が取り組んでいることを見てみると、①に関しては、初期適応指導型教室や就学ガイドブックの作成・配布などが行われていた。②に関しては、日本語指導と教科指導を統合した JSL カリキュラムというものが考案されていた。③に関しては、進路ガイダンスの開催や進路相談

の充実が進んでいた。しかし、④のアイデンティティの形成に関しては、国としての政策は調べた限りでは見つけ出すことはできなかった。以上のことから、私たちは外国にルーツを持つ子どもへのアイデンティティ形成の支援が進んでいないことに注目した。

3. 研究テーマの課題

下記の2点から、「支援が行われていない」ことが、アイデンティティ形成の支援が進んでいない原因だと考える。

①JSL 児童生徒（JSL カリキュラムを導入されている生徒）の教育において言語習得の課題に焦点があまりすぎ、中等教育レベルの生徒たちの自己アイデンティティに関する研究がまだ十分ではない。

②文部科学省も一人一人の個性を伸ばす教育と訴えているが、実際に子どもに反映されているかどうかはわからない。

以上より、言語習得の課題に焦点があつまりすぎ、アイデンティティ形成に関して十分な研究や具体的な施策が存在しないことによって、「支援が行われていない」ことが課題であると考えられる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

アナザースカイプロジェクト：本プロジェクトでは、外国にルーツを持つ子どものアイデンティティの確立に寄与することを目的とし、留学生とその国へ留学した経験のある日本人学生で国際理解教室を開催する。授業内容は、外国にルーツを持つ子どもと同じ母国の留学生が日本について発表し、その国へ留学した経験のある日本人学生がその国について発表し、最後に生徒がその内容についてグループワークし発表する。それにより、外国にルーツを持つ子どもが留学生を通して自身のアイデンティティを受け入れることが目標である。

アナザースカイプロジェクト概略図

授業内容



本プロジェクトには、留学生・留学経験日本人学生・日本語支援団体・西浦ゼミの4つのアクターが存在し、以下の手順でプロジェクトを進める。

①西浦ゼミがボランティアの留学生と留学経験の有る日本人学生を集める②支援団体に集めた人材を紹介し、そこに在籍する外国にルーツを持つ子どもと合った国籍のメンバーを選定する③支援団体で国際理解教室を行う

【独自性】

“アイデンティティの確立が重要であることばかりが先走りして、具体的な方法がしっかりと立ち立てられていない” 出典：坂田麗子（2004）JSL 児童生徒のアイデンティティを考慮した指導——I 市にあるペルー人学校での日本語指導を通じて 年少者日本語教育実践研究 vol.2

【有効性】

“外国にルーツを持つことが強みと分かったことで、大学院まで進学することができた”
“社会で強みを生かせると気づいて前向きになった”

出典：荒巻重人.榎井緑.江原裕美.小島祥美.志水宏吉.南野奈津子.宮島喬.山野良（2017）外国人の子ども白書.明石書店.

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

形式	対象	期間	主な質問内容
インタビュー	NPO 法人 青少年自立援助センター(3回)	8/9～8/29	外国にルーツを持つ子どもの現状について
	世界の子どもと手をつなぐ学生の会（2回）	7/26、9/6	外国にルーツを持つ子どもの背景について
	八王子にほんごの会（2回）	8/26、9/16	外国にルーツを持つ子どもの背景について
	八王子国際協会（5回）	8/28～9/25	施策内容について
	八王子市立由井第一小学校	9/19	外国にルーツを持つ子どもの背景について
	八王子市第6小学校（2回）	9/21、9/27	外国にルーツを持つ子どもの保護者について
	小学校教員（4人）	9/10	外国にルーツを持つ子どもの背景について
	小学校校長（1人）	9/13	外国にルーツを持つ子どもの背景について
ボランティア	NPO 日本語支援団体 3団体（20回以上）	8/9～9/27	ボランティア
電話	八王子国際協会（2回）	9/21、9/27	施策の独自性
	小学校（23校）	9/15～9/16	外国にルーツを持つ子どもの現状について
	小学校教員（1人）	9/11	外国にルーツを持つ子どもの背景について

6. 結果や今後の取り組み

[今後の取り組み]

- ・CCS 八王子教室 (Club of Children and students working together for multicultural society) と連携予定
9月30日に西浦ゼミとCCSの連携の場を確保
- ・八王子国際フェスティバルにて交流会の実施の持ちかけ
- ・八王子市教育委員会と連携し、小学校での実施のお願い
八王子市教育委員会へは連絡・訪問済み。今後、実施のお願い
- ・その他多数の日本語支援団体・学校へ協力要請拡大

7. 参考文献

- ・荒巻重人. 榎井緑. 江原裕美. 小島祥美. 志水宏吉. 南野奈津子. 宮島喬. 山野良一. 外国人の子ども白書. 明石書店. 2017. 320p
- ・川上郁雄研究室 (2004) JSL児童生徒のアイデンティティを考慮した指導——I市にあるペルー人学校での日本語指導を通じて
<http://www.gsjal.jp/kawakami/sakata01.html>
- ・新宿区 (2012) 新宿区 平成24年度 外国にルーツを持つ子どもの実態調査
<http://www.city.shinjuku.lg.jp/content/000109321.pdf>
- ・法務省 (2016) 平成28年6月末現在における在留外国人数について (確定値)
http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00060.html
- ・文部科学省 (2016) 外国人児童生徒等教育の現状と課題
http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/todofuken_kenshu/h28_hokoku/p016df/shisaku03.pdf
- ・文部科学省 (2015) 外国人児童生徒等に対する教育支援に関する基礎資料
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/121/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2015/12/22/1365267_01_1.pdf
- ・文部科学省 (2016) 語能力が十分でない子どもたちをめぐる教育上の課題と将来への展望
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/dai35/sankou3.pdf>
- ・志水宏吉. 清水睦美. ニューカマーと教育-学校文化とエスニシティの葛藤をめぐって. 明石書店. 2001. 413p

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合は、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、提出してください